

南無阿弥陀仏 ～人と生まれたことの意味をたずねていこう～



宇佐組混声合唱団 「コールハイマート」 (於) 四日市別院

## 生死無常をこえ、自他の平等を願わしむお念仏を！

先月、私も新型コロナウイルスに感染し、家族は濃厚接触者となりました。「触ったところはしつかり消毒するんだぞ」と消毒液を渡され、「台所には来るなよ」とか「母ちゃん(98才)には近づくな」と言われながら十日間療養しました。

二年前コロナ感染が拡大した頃、感染者やその家族にひどい嫌がらせがありました。恐ろしい未知の病気に対する私達の反応は、冷たく激しい差別や忌避の応酬でした。今は医学の発達や報道によって変わったようにも見えますが、私達には強力な自己防衛本能があつて、対立や争いの因となります。

私達の受けた命は、時代と場所を決められて生まれ、生き、老い、病んで、死すべき命の道理に順つていきます。しかしそれを生きる私達の心は、老病死に対して困惑し、恥じ、嫌悪して逆らいます。「それはいのちを生きる者としてふさわしい態度ではない」と釈尊は考え、生老病死の苦を超える道を求めて出家したのでした。そして念仏という如来の智慧と慈悲によってこの苦悩の世を超える道を開いて下さいました。

自己防衛本能は、命を護る大事な力ですが、我が命に愛着してその無常を受容できず、自他の平等性を無視して自己の利益を追求し、他を軽蔑して自の正義を主張しがちです。生・老・病・死は生命の真実の相であり、自他一如がいのちの真実であり、私達の救いです。自他一如のいのちに帰り、安危を共同(安心も危険も共に)する生活を、念佛申しつつ開かねばならないと思います。

コロナウイルスによって失っているものは多けれど、人として大切なものを取り戻してゆく営みを、そろそろと始めたいものです。

(藤谷純子)

春季彼岸会法話（抄録）

生まれ甲斐について

「もう一人の自分（法蔵菩薩）にあう」

宮岳文隆先生



（由布市・心光寺住職）

孤独の中を生きてきた人

フェイスブックに「寺院掲示板の法語」というコーナーがあった。先日、「自分自身のいないところに、仏さまはいない」（平野修師）という法語が紹介されていた。それは言い換えれば、今、自分自身のいる所に仏さまはおられるということ。どういふ自分であろうとも、その自分のところにこそ仏さまはおられるのです。それ以外のおところにはおられないのです。その仏さまが、法蔵菩薩という仏さまです。東尋坊には電話ボックスがあって、中に電話番号が張ってある

そうです。飛び込む前にそこに電話する人がいるかもしれない。そういう場があるということは大変なことですね。

私はある傾聴のグループに所属していて、何十年と孤独の中で生きてきたという女性から電話がありました。身内は誰一人関わりを持たずとしない。母親すらも着信拒否している。友達もいない。精神科へ何十年も通っている。そういう歩みを延々と話されて、「こういう私に何か言ってもらえませんか」と発言を求められたんです。急にそう言われ、思わず「そういう状況の中を、よくこれまで生きてこられましたね」と言いました。それが正直な実感だったんです。それなら、「今までそういうふうに誰からも言ってもらったことがない」と言われました。人間は、辛い思いを自分一人の中に溜め込んでおいたら危ないんです。共感を持って聞いてくれる人に、自分の辛さを話して受け止めて貰うということがどうしても必要です。それで「あなたは、そんな辛い状況を抱え、誰一人それを聞いてくれる人がいない孤独の中で、よくぞ生きてこられましたね」と申しあげたんです。

もう一人の自分がいる

電話相談を受けていると、話を聞いてくれる人が一人もいない、と言う人がいっぱいいます。私はそうした人に、「二人いますよ。それはもう一人の自分なんです」と答えています。どんな人にも、もう一人の自分がいて、すべてを「辛かったなあ」といって全部受け止めてくれるんです。それが、深い所における法蔵菩薩です。そのもう一人の自分である法蔵菩薩に向かって、自分のどんな醜いことも、辛いことも、洗いざらい聞いてもらったらいいんです。

実は、私もやっております。日記という形で。十代の頃から毎日つけるというのではないけれど、持っていき場のない思いを全部書くんです。自分のすべてを、醜いものも、汚いものも、嬉しいことも、辛いことも、書くという形で聞いてもらおうんです。そういうもう一人の自分は、誰の中にもいるんです。そのもう一人の自分と対話する。自己対話です。どんな自分にも向き合ってくれる法蔵菩薩との対話です。その一つの形式として、私には日記があるわけですが、

別にそれは日記じゃなくてもいいんです。

その人は、始めはふてくされたような声だったので、段々元気な声になってきて、「私もそれならできそうだからやってみます」と応えてくれました。

過程を聞いていく

朝日新聞に「悩みのるつぽ」という人生相談があります。ある時こんな相談が出ていました。相談された方の主人が、息子に野球を強要している。子どもは、本当はしたくないけど、泣き泣きやっている。子どもが可哀そうだから相談者が止めようとする、ケンカになる。なんで主人がそんなことをするかというと、高校生の時プロを目指して挫折したので、その夢を子どもに託して真剣になっっている訳です。それで相談者の言うことをどうしても聞こうとしない。あまりにも子供が可哀そうなので、もう離婚するしかないんだろうかという相談でした。

そのときの回答者（清田隆之氏）は、「明らかにそれは虐待で、別れることも一つの選択肢かもしれないが、その前に、ご主人の心を聞かせてもらったらどうだろうか。そこから対話の糸口が開けてくるかも知れない」と書いておられた。私は、そうだなと思いました。今そうなっている主人の結果だけを見るのではなくて、そこに至る過程を聞いていく。主人にも辛い経験があった訳で、その過程を聞いてもらえたら、もしかしたら変わるかもしれないと思いました。

怒りを抱きしめる

先日亡くなったティク・ナット・ハンというベトナムの僧のことを、ある方がフェイスブックに投稿していました。ベトナム戦争の最中、ある村がアメリカの爆撃で全滅した。指揮官はそれを正義のために行ったと言った。ハンさんは、それを聞いて強い怒りをおぼえた。怒りを持って余し、持って行き場のない怒りの中で、ひたすら「怒りを抱きしめ、怒りの面倒をみる」という実践をしたそうです。それはずっと続けていくうちに、ただ許せないというだけではない世界を少しずつ感じるようになって話されたそうです。善悪の世界しかなかったら、もう切り捨てるしかないわけですが、「怒りを抱きしめ、怒りの面倒をみる」と。まあ聞くということでしょうか。まさ

に法蔵菩薩という方はそういう方だと思っんです。どういう心であつても見落とさない。どういふ私にも向き合つてくださる。醜い心も、黙つて抱きしめる。抱きしめるとは、そうなつた過程を聞いていくということでしょう。

**法蔵菩薩の捨て方をいただく**

親鸞聖人は、『教行信証』の中で、「不善の三業は、必ず真心の中に捨てたまへざるを須よ」（聖典215頁）と書いておられます。「不善の三業」とは、私どもの虚偽に満ちた醜い心や言動のことです。それを私の心で捨てるのではない。法蔵菩薩の眞実のお心をいただいて捨てなさいと。決して自分の心で捨てるのではないんだよと。どうして親鸞聖人は、そういう無理な読み方までしてそのことを強調されるかという、私どもが自分の心で捨てるという場合は、どうしてもそういうものを嫌悪することしかできないからです。それが私どもの捨て方です。しかし、法蔵菩薩は、私どもの不善の三業は、私どものコントロールを超えた宿業によるものだということがよくわかつておられるのです。山を動かさうとして

も、それは無理でしょう。それと同じだということがよくわかつておられるのです。それで、そういうものを決して毛嫌いせず、それと向き合つて、その罪を痛んで、悲しんで、「辛かつたな。ご苦労さま」と手を合わせ、受け止めて歩んでくださるのです。運命を共にして歩んでくださるのです。同体の大悲と言います。そういう捨て方です。つまり、捨てるといつても、自分の外に排除するのではなくて、その罪業の身と一つになつて、責任を負つて歩んでくださるということです。どんな私にも向き合つてくださるということですよ。

それが法蔵菩薩の願心、お心魂です。その魂が、南無阿彌陀仏の名号となつて、久遠劫の昔から私を呼び続けて、待つてくださっている。その法蔵魂こそが、私の眞の主体なんです。

「生まれ甲斐」という講題を掲げさせていただきましたが、そういう、どんな私にも向き合つてくださる法蔵魂に出遇うということが、人間として生まれてきた私の「生まれ甲斐」だと思つています。そのことによつて、好き嫌いのある私にも、どんな人とも向き合つていく道と呼びかけてくださるのです。

**りりー随想 第一回**

**宿業の身を歩む**

香田 紀子（大塚）

**救われるとは**

平成10年に勝福寺さまのご門徒になりました。はじめ、誘われるまま夜の同朋会に参加し、清沢満之先生の「絶対他力の大道」を皆さんと一緒に輪読しました。そのうちに「汝自当知の会」という勉強会にも誘われ、平成13年には蓮如上人五百回御遠忌に向け有志で「百日安居をはじめることになりました。そ

**始末のつかぬ私**

の時、私は「救われる、たすかるとはどんなことかなのか。南無阿彌陀仏さまにお教え願ひます」と仏様の前で表白しました。

聞法をはじめていくうちに、善い人になりたい、ほめてもらいたい、という自我意識の強い私であることを知らされました。そのことは、今までの自分が全否定されているような感じで、こんな私は嫌だと変わろうとしても、自分では始末がつかませんでした。それでも、お話を聞きたい一心で、何があつても「汝自当知の会」には参加しようと思つて決心しました。

**宿業の身を歩もう**

前の事実を受け取ることができませんでした。一年くらい孫に会おうとせず、ひとりて苦しみ、悲しみ、仏前で朝夕、手を合わせていました。

そんな時、延塚知道先生の「仏様を向こうに見て、自分はこつちにおるようでは、仏法はいつまで聞いても分からんぞ！」というお叱りの言葉が私の耳に飛び込んできました。それは毎日お仏壇の如来様を拝して手を合わせている私のことでした。

また、曾我量深先生の「如来、我となつて、我を救いたまう」のお言葉に出遇いました。迷つてぐるぐる流転している私の所へ如来の方から飛び込んで来て、私が見失っている心の奥深くにある本来の心と呼び覚まし、気付かせてくださるとの教えです。

今日まで歩ませていただき、私の思いや分別が自分自身をがんじがらめにしていてということとは、この身をもつて分かつてきました。しかも、それは死ぬまででなくならないと、親鸞聖人は教えて下さいます。こうなる

**わたしの作品**



院内町新洞 向野すずな (院内北部小2年)

**仏さまは向こう、私はこつち**

喜び、悩み、悲しみをくり返しながら生活してまいりました。ある日、突然、孫娘から「子どもが出来た」と告げられ、「こんなはずではなかった」と目の

と、お念仏申してこの愚かな身をいただきながら、この宿業の身を歩ませて頂きます。

# ご門徒さんこんにちは！ 第二十四回

## 私たちの勲章

「あなたは平成24年度の小ネギ生産において増収に精励され支部の発展に寄与されましたことは他の模範とするところであります。よってその榮譽を讃え表彰いたします。」

これは佐々木光幸さんが、宇佐農業協同組合と大分味一ねぎ生産部会から頂いた表彰状です。

宇佐ブランド認証品にもなっている「大分味一ねぎ」を光幸さんご夫婦は長年に亘って栽培していました。光幸さんの小ネギ栽培にかけた努力と情熱、そしてそれを支えた久子さんの熱意が良く分かります。

## 生い立ち

光幸さんは、昭和19年生まれの78歳、男4人、女1人の5人兄弟の3男で山本で農業を営む両親の下に生まれました。

中学を卒業すると集団就職で大坂の鉄工所に就職しました。27歳の時に親戚のおばさんからあなたに似合いの人がいるからとの勧めもあって帰郷し結婚しました。実家は手広く農業をしていました。家を継ぐはずの長男が家を出たため、光幸さん

が結婚して家を継ぎました。

久子さんは5歳年下で昭和24年生まれの72歳、院内の田所で生まれました。兄弟は6人で男3人、女3人の四番目です。

家は農業ですが、父は農閑期には土木関係の仕事、母は子どもを育てながら農業をするという田舎の典型的な家庭です。

## 共に認め合う働き者です 佐々木光幸・久子（山本）

高校を卒業すると、当時四日市にあった縫製工場に就職しました。そこで青春時代を過ごし、久子さん22才の時にお見合いで結婚しました。結婚後は山本の実家で義父や義母と一緒に生活しました。

## 家族の応援あってこそ

子供は男の子2人です。仕事で忙しい二人に代わって、お姑さんのトキエさんが子供の世話をしてくれました。おかげで兄弟仲が良く、兄弟ケンカもしたことがないような優しい子供に育ちました。現在、長男は大分市、次男は中津市に住んでおり、

共に土木関係の仕事に従事しています

さて光幸さんは、ネギ栽培を平成5年から始めました。それまではスイカやトマト等を栽培していましたが、近所でネギを栽培している方から勧められてネギを専業に始めました。

最初はネギを栽培するハウスも光幸さんが、家族の手を借りて手作りのハウスを作り上げました。最終的にはハウスが16棟にもなっていました。

小ネギは種を播いて収穫する

まで平均で3ヶ月かかります。

ハウスでのネギ栽培は、夜中の2時頃から収穫し、それを揃えて市場に出荷し、次の日の準備が終わるのはいつも夜中という繰り返しで、年中作業に追われていました。

平成19年に光幸さんは腰を痛めて身動きできなくなったこともあり、ハウスを半分にしたそうです。

久子さんは、34歳の時に近所の三和酒類に就職しました。会社はまだ瀬社橋の側にあった時から現在地に移り、大きく成長していくのを共に過こしました。

そして62歳の時に28年間勤めた会社を退職しました。

## 決断

久子さんは勤めている時から、会社に行く前と帰ってからご主人と一緒に仕事をしていましたが、退職後も朝早くから夜遅くまで一緒に働きました。

その久子さんが夜中に手が痺れて脈が激しくなり、救急車で中津の市民病院に運ばれました。幸い、着いた時には症状が落ち



着いていて特に異常はなかったそうです。

そんなこともあって、光幸さんは永年の無理が原因ではないかと思い、「やめる潮時かな」と考え、令和3年に仕事を辞めました。

## 頼りにしてるで！

今の楽しみは、子どもや孫の成長です。中津に住む次男夫婦が週一回、一緒に野菜などを取りに来るそうです。そんな時、久子さんがかける言葉が「頼りにしてるで！」だそうです。久

子さんが救急車で中津に運ばれた時も、慌てて息子さんたちが駆けつけたそうです。本当に「頼りになった」ことでしょう。

## 満足

光幸さんは久子さんを「働き者」、久子さんはご主人を「働き者でイキがよい」と言います。お互いに認め合う「働き者」、本当に感心しますね。

二人とも、ひたすら朝から晩まで働いてきたので、現在は、ゆつくり二人で畑仕事をしたり、足腰を鍛えようと久子さんの提案で毎日夕方、近所を1時間ほど散歩をしたりして、少しずつ疲れが取れてきたそうです。

それに今年は結婚して50年だそうです。結婚して今までの50年を振り返ると、お二人は「あつという間に過ぎたが、家を守ってこれたし、仕事で目指してきたことができた。やつてきたことに悔いはありません」と感慨深げに答えてくれました。

## ぜひお二人で

そのお二人にとって「お寺とはなんですか」と尋ねると「落ち着く場所」だと答えてくれました。今までは忙しくて来れませんでした。今までは、どうぞこれからお二人で、散歩を兼ねてお寺にお出でください。お待ちしております。（文責 渡辺 重昭）

# 2022年 勝福寺総代会報告

勝福寺総代長 渡辺和義



7月7日に総代会が開催され、2021年度の事業報告及び法要会計決算等と2022年度の事業計画案及び法要会計予算案が承認されました。

## 主な事業報告

### 秋季彼岸会並永代経

コロナ感染予防のため25日だけの1日法要となり、法話は、住職及び坊守が行った。参詣者は51名、リモート参詣13名。

## 報恩講

コロナ感染予防のため1月22・23日に縮小して実施。法話は、住職・坊守が行った。参詣者61名、リモート参詣4名。

### 春季彼岸会並降誕会

4月3・4日に行い、ご法話を宮岳文隆先生、腹話術を福原順子さんと坊守が行った。参詣者69名、リモート9名。

## 法要会計 決算報告

総収入 1,992,989円  
総支出 1,261,530円  
差引き残額731,459円を営繕特別会計に繰り入れました。その結果、営繕特別会計の積立残高は1,987,667円となりました。

## 本山納金

合計1,032,495円を完納しました。

## 2022年度事業計画

### 秋季彼岸会並永代経

日程 9月23日(金) 秋分の日  
24日(土)  
講師 住職・坊守

## 報恩講

日程 2023年1月20日(金)  
21日(土) 22日(日)  
講師 20日 住職  
21・22日 太田浩史先生

\*今年度から当番制に戻り、お齋を出す方向で検討していきます。当番地区(常徳+院内)

### 春季彼岸会並降誕会

日程 2023年3月21日(火)  
春分の日・22日(水)  
講師 未定

## 研修事業

### 御名を聞く会

日時 毎月28日午後一時半  
講師 外部より招聘または住職・坊守  
会費 外部より講師を招聘するときは冥加金(千円)

### はじめの一步

毎月第二土曜日午後一時半、参加費無料

## 教化活動

### 女性門徒の会「かはづの会」

研修会、清掃奉仕、親睦会などを実施

### たんぽぽ子供会

春、夏、冬休みに実施

### 「平和の鐘」を撞く集い

8月15日

「忘れな鐘」を撞く集い  
3月11日

### 寺報「ひびき」発行

1月・5月・9月発行

## 「裏庭ブロック塀 並 離れの煉瓦塀」改修工事

勝福寺裏庭のブロック塀と離れの煉瓦塀は60年以上が経過し、倒壊の恐れがあるた

## 勝福寺女性門徒の会

### 「かはづの会」

#### 総会報告

会長 若林範子

7月10日、仏教婦人会「かわづの会」並びに研修会がありました。

コロナ禍と高齢化も重なり、活動が思うように出来ない年でした。

又、名称を仏教婦人会から女性門徒の会と改めました。是非、若い方の会員参加をお願いします。

研修会では宅卒業生との交流会があり、ザキヤさんはインドネシア・ロテ島の経験を中心に、ベトナム

め、総代会で改修工事をすることに決定。2業者から見積もりをとった結果、宇佐産業さんに施工してもらうことに決まりました。

工事代金 2,400,000円

財源には営繕特別会計の積立て金1,987,667円を当て、不足分は勝福寺一般会計から充当することにしました。

出身のナムさんは、現在宇佐市の外国人相談員をしていて、技能実習生の置かれている厳しい現実について話して下さりました。最後にナムさんの奥さんの本多沙代さんが「ソレアード」子供たちが生まれる時」を歌って下さいました。



ザキヤさん親子とナムさん一家

# 勝福寺写真日誌

3月中旬、ご門徒の木ノ下時生さん（庭師）が無償で裏庭を石庭に造り替えて下さいました。



4月3日4日、春季彼岸会並降誕会。ご講師は宮岳文隆先生。イベントとして坊守が教えを受けている福原順子さんに腹話術などを披露していただきました。



5月5日、こどもの日、市内有志によって四日市別院で「寺いち」が開催されました。法話グランプリやチャダンスなどのステージイベントや、「ネギ焼き」などの無料配布、スタンプラリー参加者へのガチャポンなどがあり、境内は600人を超える親子でにぎわいました。



5月14日、四日市別院を会場にして「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要 宇佐組お持ち受け大会」が開催されました。勝福寺を会場に月二回練習を重ねてきた宇佐組混声合唱団「コールハイマート」も仏教讃歌を披露させて頂きました。



6月7日 アメリカで開催される世界相撲大会に向け宇佐市でキャンプしていたウクライナ選手団にカンパをお届けしました。後日、合宿参加メンバー6人全員がメダルを獲得することできたとの報告を頂きました。



戦場となつている祖国に帰つた彼らは、今、どこで、どうしているのでしょうか。無事でありませうように！



今年も終戦記念日の8月15日に「平和の鐘」を撞きました。



## 行事予定

- 9月10日（土）はじめの一步
- 9月23日（金）・24日（土） 秋季彼岸会
- 9月28日（水）御名を聞く会
- 講師 渡辺愛子先生
- 10月15日（土）はじめの一步
- 10月28日（金）御名を聞く会
- 講師 松尾整子先生
- 11月1日（火）〜4日（金） 関東御旧跡巡拝
- 11月28日（月）御名を聞く会
- 講師 住職・坊守

## 編集後記

より親しみやすい「ひびき」にするためには？というテーマで編集委員会では内容等を少し変えてみました。

最初にしたのは編集委員の増員、そして新しい企画として「リレー随想」を始めました。日頃思っていること、感じていることなど自由なテーマでご門徒さんに書いて頂くと思うています。声がかかったときはどうぞご協力の程よろしく願います。

今後皆さんのご意見を頂きながら果敢に挑戦していきたいと思ひます。（重昭）

皆さんにかわいがっていただいたゆきこが岩手出身の青年と結婚しました。



亡きお父さんへ報告

信と風さんに授かった楽ちゃんも一歳に。将来はドラマーかな？

